



# こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより  
第6号  
平成30年12月19日発行

## ◇ 学力向上推進会議（岐阜地区全体会）を実施しました ◇

平成30年10月23日（火）岐阜市教育研究所にて、第2回 学力向上推進会議（岐阜地区全体会）を実施しました。会の目的は、全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえて明らかにした各学校の学力向上に係る課題に対して、実践提案、事例紹介、研究協議等を通して、具体的な指導の在り方を明確にし、児童生徒の確かな学力向上を図ることです。

参加者は、各小・中学校、義務教育学校の学力向上推進教師及び各市町教育委員会担当者の皆さんです。会の内容は、以下の通りです。

- 【全体説明】** (1) 岐阜地区の実態分析（強みや課題等）、指導改善ポイントの伝達  
 (2) 「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえた指導改善（裏面参照）

### (1) 岐阜地区の実態分析（強みや課題等）、指導改善ポイントの伝達について

全体会では、岐阜教育事務所から自己肯定感、家庭学習、話し合い活動について、昨年度との経年比較から3つの指導改善ポイントをお伝えしました。

ポイント① 自己肯定感：「授業で子どもの自己肯定感を高める」こと

ポイント② 家庭学習：「子どもに目的をもたせて、自己選択の場を設定する」こと

ポイント③ 話し合い活動：「考えが深まっていない2割の子（個）への指導を充実する」こと

### 【協議内容】 小グループで協議した課題別テーマについての全体交流での実践報告

協議会では、昨年度、各学校で選択した課題別テーマの進捗状況について交流しました。

#### 【課題A】 教科の専門性向上と指導改善

##### ①主体的・対話的な学びを生み出す学習活動の工夫

題材開発や必然性のある学びの過程、アクティブラーニングスペース等の活用により、子どもの発達の段階に応じた、仲間と関わる「話し合い活動」を仕組み、主体的に学ぶ意欲を高める。

##### ②子どもの学びの見届け方や評価の仕方の工夫改善

全教科で確実に「定着状況の見届け」をするために、中間交流での学びをつなげて、授業終末で、キーワードや字数を指定するなどして、子ども自身が学びをノートにまとめ、交流する。

#### 【課題B】 学習規律や学習習慣、学び方

##### ①授業と家庭学習をつなぐ授業改善

自主学習ノートの交流や朝の帯時間での確認、前期後期1回の確認テスト等の、自主的に自分に必要な「家庭学習」に臨む子を育てる。

##### ②主体的に学ぶための学習活動の工夫

「楽しい授業」の具現のために、全員挙手から1日1発言へとレベルアップを図ることにより、「自己肯定感」を高める。

#### 【課題C】 研究体制やチーム学校としての取組

##### ①学力向上推進教師の役割・取組

ベストノート展による予習・復習の習慣化と「家庭学習」状況調査による実態把握等の全学年が課題や取組内容を共通理解する。

##### ②教科指導の専門性を高める研修

小規模校の特性を生かし、「家庭学習」のポイントや改善の手立てを明らかにする研修を通して、若手教員の指導力を向上させる。

### 【参加者の感想】

- ・各教科における誤答とその分析、さらに指導のポイントが、参考になった。岐阜地区として大切にしている3つの指導改善ポイント、特に家庭学習と話し合い活動を高めたい。
- ・これまでの本会議の取組の成果が確認できた。定着が十分でない児童生徒への指導・援助の工夫に加え、学力上位層に目を向けた取組についても、具体的に検討する時期にきている。
- ・自校や市町の課題と重なる説明が多くあり、今後取り組むべきことがさらに明確になった会であった。現状維持ではなく、今後の指導について、具体的な改善を図っていく。

## (2)「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえた指導改善について

### ～指導改善資料「子どもの目線に立つ2018」の活用～

「平成30年度全国学力・学習状況調査」の岐阜県の結果を踏まえて、指導改善を図る際の参考になるよう、授業アイデアの一例として、県教育委員会が国語、算数・数学・理科の3教科について「子どもの目線に立つ2018」を作成しました。調査対象教科や対象学年だけでなく、学校全体で組織的・継続的な取組によって指導改善を図っていくことが大切です。

先日の学力向上推進会議では、それぞれの教科の「指導改善ポイント」について学校支援課より説明がありました。今回は多く説明されたことの一つを算数・数学で紹介します。

### (1)岐阜県の課題から

( )は県正答率

#### (小学校)

A<sup>2</sup> 「小数の除数」の意味の理解 (36.4%)

B<sup>3</sup> (1)グラフとグラフから読み取った情報を関連付けて解釈し、言葉や数で記述 (22.5%)

#### (中学校)

A<sup>2</sup> 「一次関数」の意味の理解 (41.4%)

B<sup>3</sup> (3)事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明 (12.7%)

#### <問題>小学校 A<sup>2</sup> (全国の正答率：39.9%)

「答えが  $12 \div 0.8$  の式で求められる問題」を1～4の選択肢から選ぶ問題です。

- 1 mの重さが12kgの鉄があります。この鉄の棒0.8mの重さは何kgですか。
- 0.8Lで板を12㎡ぬることができるペンキがあります。このペンキ1Lでは、板を何㎡ぬることができますか。
- 赤いテープの長さは12cmです。白いテープの長さは、赤いテープの長さの0.8倍です。白いテープの長さは何cmですか。
- 長さが12mのリボンを0.8mずつ切っていくと、0.8mのリボンは何本できますか。

(正解) 2と4です

1と3は、 $12 \times 0.8$  というかけ算の式になります。正答率は4割を下回り、全国との差も大きく開いています。

このことから、自分の力で、数量の関係を数直線図等に整理して、立式につなげることに課題があることが分かりました。

そこで

### (2)指導改善として

自分の力で立式ができるようにするためには、児童生徒がどのようなことを身に付ける必要があるでしょうか。やはり数量の関係を数直線等に整理し、操作や図を根拠に演算決定し、立式することを確実に身に付けておくことが必要です。

そのためにも、方法や手順の背景にある概念や性質を引き出すために**根拠を問うような「問い返し」**をしましょう。児童生徒が発言する際に、正しいことを発言していても、「そうですね。」と言ってしまうのではなく、教師が意図的に、「その理由を説明できると、とてもすてきですよ。どうですか。」と問い返すことが有効です。

このような指導を継続することで、ただ単に公式を覚えたり、計算ができるようにしたりするだけでなく、「**概念や性質**」を引き出すことができます。また、**別の場面でも適用できる「確かな知識及び技能」**を身に付けることができます。

#### 根拠を問う (問い返し)

問題 赤テープは2.5m、黄テープは2mです。  
黄テープの長さは、赤テープの長さの何倍でしょう。

式は  $2 \div 2.5$  になりました。



どうしてその式になったのか説明できますか？



だってね、数直線図で…

上述は一例です。この他については、会に参加された先生に尋ねてください。



平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 指導改善資料	
子どもの目線に立つ2018	
目次	
1	国語
2	算数・数学
3	理科
4	社会
5	外国語
6	総合的な学習の時間
7	その他

この指導改善資料「子どもの目線に立つ2018」は、どの学年でもどの時間にも活用することができる汎用性の高いポイントがまとめられています。例で示した時間だけでなく、毎日の授業で、これらの指導改善をしていくことは、確かな学力の定着につながります。冊子は全ての教員に1部ずつ配付されています。今後の実態把握や指導改善に役立ててください。